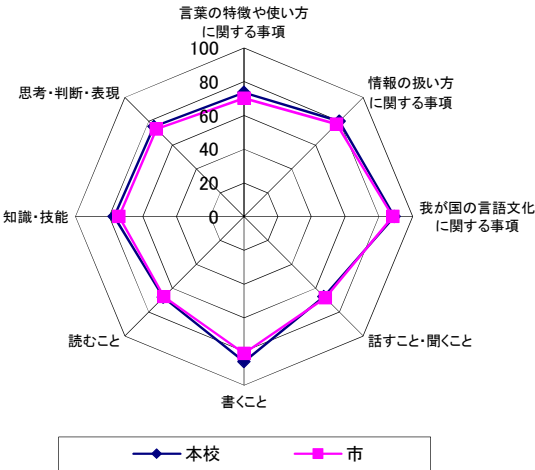


宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.6	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	79.9	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	89.2	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	67.0	68.2	67.4
	書くこと	86.0	81.1	71.7
	読むこと	67.6	67.2	61.3
観点別	知識・技能	77.0	74.2	67.9
	思考・判断・表現	75.6	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

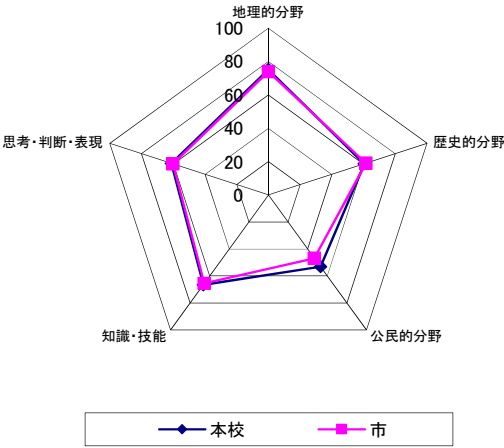
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	正答率は、市を3.4ポイント上回っている。 ○漢字を書く設問では、全ての問題で市の平均を上回った。 ○助動詞に関する設問で、3.0ポイント、類義語に関する問題で9.5ポイント、それぞれ市の平均を上回った。 ●敬語についての設問の正答率で、市の平均を1.5ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・語句や文法に関する学習については、繰り返し取り組んでいるドリル学習が効果的であったため、今後も継続していく。 ・敬語については、授業中だけではなく普段の生活場面でも正しく使う機会を意識させるなど継続して指導する。 ・文法に関する学習は、3年間を見通して積み上げていくものであるため、以前学んだことの復習を行ってから新しい事項を学習できるよう、計画的に指導していく。
情報の扱い方に関する事項	正答率は、市を2.3ポイント上回っている。 ○説明的な文章の内容を読み取り、情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える問題では、市を4.1ポイント上回っている。 ○レポートを書く設問の中で、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することの設問では、市を0.4ポイント上回っている。	・授業中で、発問に対する考えを各自がノートにまとめ、情報を整理する学習活動を多く設定するなどの取り組みを、今後も継続していく。 ・レポートに関する学習については、1人1台端末を使って記述をしたり、推敲を行ったりする学習活動を計画的に取り入れ、より指導の充実に努めていく。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市を0.9ポイント上回っている。 ○歴史的仮名遣いについて理解しているかを問う設問では、市を0.2ポイント上回っている。 ○現代語訳を手掛かりに古典を読む設問では、市を1.8ポイント上回っている。	・古典に関する学習については、逐次訳、完全傍訳等を継続的に扱い、繰り返し習得する学習を継続していく。 ・歴史的仮名遣いに関しては、語句や文法に関する学習と同様にドリル学習の機会を設けるなどして、より一層の拡充に努める。
話すこと・聞くこと	正答率は、市を1.2ポイント下回っている。 ○話の展開を予測しながら聞き、自分の考えを深めているかを問う設問では、市を2.4ポイント上回っている。 ●話の展開を予想しながら聞いているかを問う設問では、市を3.4ポイント下回っている。 ●自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫しているかを問う設問では、市を2.5ポイント下回っている。	・プレゼンテーションやスピーチ等、話し手に耳を傾け聞く活動では、メモを取りながら内容を整理するとともに、表現の工夫についてもメモを取れるようにするなど、ワークシートの工夫を図っていく。
書くこと	正答率は、市を4.9ポイント上回っている。 ○レポートを書く、文章を書くことに関する7つの設問では、全て市を上回っている。	・授業の中で、発問に対する考えをノートに書いて整理する学習活動を多く設定する取組を、今後とも継続していく。
読むこと	正答率は、市を0.4ポイント上回っている。 ○論理の展開の仕方を捉えているかを問う設問では、市を6.5ポイント上回っている。 ●文章の論理の展開を評価しているかを問う設問では、市を10.1ポイント下回っている。	・指示する語句や接続する語句に着目し、論理や物語の展開を捉えて読むようにする学習活動を、今後も継続していく。 ・正確な読解とともに、展開や表現が適切であるかを批評しながら読解する読み方についても意識を向けられるよう、授業で使うワークシートの工夫を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	75.2	74.0	67.9
	歴史的分野	60.4	61.5	56.1
	公民的分野	53.2	46.9	40.7
観点別	知識・技能	66.5	65.5	60.6
	思考・判断・表現	61.2	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

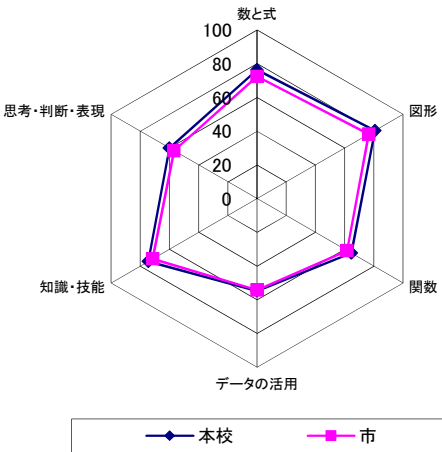
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	正答率は、市を1.2ポイント上回っている。 ○環境問題について、複数の資料に着目し表現する記述問題では、市を5.5ポイント上回っている。 ○四国地方の伝統産業が抱える課題について、複数の資料に着目し、表現する記述問題では、市を11.1ポイント上回っている。 ●九州、中国・四国。近畿地方の工業に関する特色について理解を問う問題では、市を3.4ポイント下回っている。	・課題解決学習の際、1人1台端末を積極的に活用し、豊富な情報から必要な情報を適切に選択して、考察したりまとめたりする活動を多く取り入れる。 ・経線・緯線、大陸や海の地形を鳥瞰することができるように、ICT機器を効果的に活用した学習活動を工夫する。
歴史的分野	正答率は、市を1.1ポイント下回っている。 ○「近世の日本」では、江戸時代の文化や都市の繁栄に関する問題が、市より上回っている。大阪の繁栄についての考察問題は、市より8.3ポイント上回っている。 ●「古代までの日本」の問題では、正答率が6問のうち5問が市を下回っている。 ●「近世の日本」では、徳川綱吉と新井白石の政治について、複数の資料に着目して考察する問題では、市を8.5ポイント下回っている。	・資料を読み取る力を向上させるため、ICT機器を活用して視覚的な資料だけではなく、聴覚的な資料などを取り入れて、多角的に分析する活動を行う。 ・社会的な思考・判断・表現の力を向上させるため、話し合い活動や文章でまとめる取り組みを継続して実施する。 ・「宇都宮学」や地域の歴史について触れる学習を随時取り入れる。
公民的分野	正答率は、市を6.3ポイント上回っている。 ○「日本国憲法」に関する問題は、2問とも市を20ポイント程度上回っている。 ●さまざまな新しい人権が認められるようになった背景について考察し、表現する記述問題は、市を8.8ポイント下回っている。	・「人間の尊重と日本国憲法」では、日本国憲法の基本原理を知識として理解するだけではなく、日常生活の様々な場面で憲法が活かされていることを体験、追究させる学習活動を工夫する。 ・ICT機器を活用して様々な資料を分析し、授業の振り返り活動で分析結果を表現する活動を取り入れる。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.4	72.5	71.3
	図形	80.7	76.5	68.1
	関数	64.6	61.7	50.3
	データの活用	54.8	54.2	43.5
観点別	知識・技能	74.5	71.5	66.7
	思考・判断・表現	60.0	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

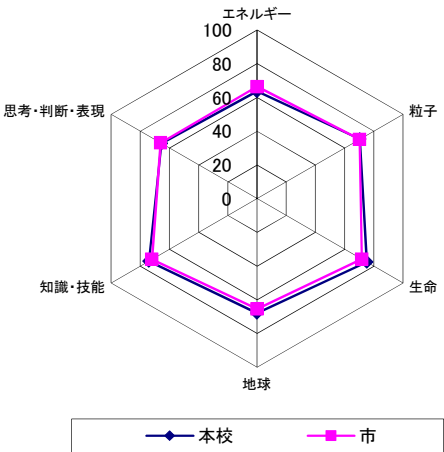
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、市を3.9ポイント上回っている。 ○式の計算、式の展開と因数分解、方程式に関する問題では、ほとんどの問題で市を上回っている。 ○与えられた文章問題に対して、2次方程式を立式する問題では、市を10.5ポイント上回っている。 ●式の計算の記述問題では、市を1.0ポイント下回っている。平方根の加法では、市を1.8ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算力を高めるため、計算の復習問題を授業の最初に時間を設定する。 ・論述問題に取り組む場面を設定し、自分の考えを数学的な用語を用いて表現する場面を授業の中で積極的に取り入れる。 ・各学年の計算の授業において習熟度別学習を取り入れ、基礎・基本の確実な習得を図る。
図形	正答率は、市を4.2ポイント上回っている。 ○垂線の性質を理解し、三角形の高さを表す線分を作図する問題では、市を12.4ポイント上回っている。 ○三角形を対称移動させたときの対応する点を選ぶ問題では、市を7.8ポイント上回っている。 ●図形の回転移動させたときの図形が重なる角度を求める問題では、市を1.0ポイント下回っている。	・ICTを活用し、図形を自ら動かして、図形に対して多面的な見方が身に付くよう指導の工夫をする。 ・生徒の習熟度によって取り組む問題を変更し、個に応じて主体的に学べる場面を設定して活用する力を育む。
関数	正答率は、市を2.9ポイント上回っている。 ○グラフを用いて2つの事象を比較し説明する記述問題では、市を10.6ポイント上回っている。 ●冷蔵庫を購入して、5年間使用したときの総費用を求める問題では、市を2.0ポイント下回っている。	・授業の導入で、1、2年次の学習内容を復習し、学びのつながりを想起させる。 ・日常生活と関連付けた内容のレポート等を作成する学習活動を取り入れ、グラフの書き方や式の求め方を考えさせる。 ・表と式とグラフの相互の関係を授業内でしっかりと確認し、関数の概念を獲得できるようにする。
データの活用	正答率は、市を0.6ポイント下回っている。 ○ヒストグラムから、中央値を読み取り、含まれる階級の階級値を選ぶ問題では、市の正答率を5.4ポイント上回っている。 ●四分位範囲を求める問題では、市を11.0ポイント下回っている。	・グラフやヒストグラムの特徴から読み取れる状況を説明し合う学習活動を取り入れる。 ・身近な資料を用いた教材を用いて、ヒストグラムや箱ひげ図を作成し、分析する学習活動を取り入れることで、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	63.7	66.5	61.2
	粒子	70.5	70.2	62.3
	生命	75.2	71.8	65.7
	地球	67.8	65.4	61.0
観点別	知識・技能	74.0	72.0	67.3
	思考・判断・表現	65.4	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

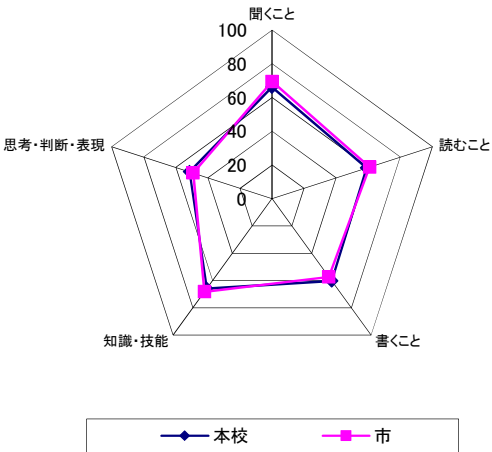
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は、市を2.8ポイント下回っている。 ○電力量を求める式を理解しているかを問う問題では、市を4.3ポイント上回っている。 ●LED電球を使うことで節約できる電力量を求めることができるかを問う問題では、市を8.4ポイント下回っている。 ●慣性によって等速直線運動がおこることを推測できるかを問う問題においては、市を6.3ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・映像資料、実験及び観察などを用いて、エネルギーの性質や等速直線運動の規則性を身近な現象と関連付けて理解できるよう、指導方法を工夫する。 ・エネルギーの変換効率などの応用問題においては、演習問題を解く時間を十分に確保し、エネルギー保存の法則と合わせて理解を深めさせる。
粒子	正答率は、市を0.3ポイント上回っている。 ○BTB液の色から、液の性質を区別する問題では、市を6.5ポイント上回っている。 ●アンモニアの性質を理解しているかを問う問題では、市を4.2ポイント下回っている。 ●物質の成り立ちについて、実験の考察を検討し、改善する記述問題では、市を3.1ポイント下回っている。	・化学変化については、原子や分子のモデルを用いて話し合いながら考察させ理解を深めるとともに、原子モデルをICTを活用して視覚的に理解させる活動を取り入れる。 ・気体の収集法や性質については問題演習を繰り返し行い、基礎・基本の確実な定着を図る。
生命	正答率は、市を2.4ポイント上回っている。 ○動物の体のつくりとはたらき、遺伝の規則性と遺伝子に関する全ての問題で、市を上回っている。 ○柔毛や毛根の作りの利点を説明する記述問題では、市を6.1ポイント上回っている。 ●シダ植物とコケ植物のからだのつくりを理解しているかを問う問題では、市を0.5ポイント下回っている。	・生物の体のはたらきについては、映像資料などを用いて、体のつくりとともに器官のはたらきと関連付けて、総合的に理解できるよう指導を工夫する。
地球	正答率は、市を2.5ポイント上回っている。 ○無色鉱物について理解しているかを問う問題では、市を6.1上回っている。 ●寒気と暖気の動きについて知識を問う問題では、市を1.2ポイント下回っている。	・寒気と暖気の動きについて、映像や実際の経験を関連付けながら、空気の動きを考察できる授業を工夫する。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	66.1	69.4	63.8
	読むこと	59.0	60.8	55.6
	書くこと	60.4	57.5	47.8
観点別	知識・技能	65.9	68.3	64.1
	思考・判断・表現	51.5	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は、市を3.3ポイント下回っている。 ○対話の内容を聞き、何をしているかを尋ねられて応答する選択問題では、市を2.7ポイント上回っている。 ●英文を聞き、その内容に合う絵を選ぶ(物の説明)問題では、市の平均より10.8ポイント下回っている。 ●聞き方の問題では、多くの設問で市を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で適切な場面設定をし、場面に合った会話力を養う。 ・生徒間での英語のやり取りや、教師との英語のやり取りをする機会を増やし、英語に親しむ場면을積極的に取り入れる。 ・教科書の問題に取り組ませるだけでなく、英語の使用量を増やし、インプット強化に努める。
読むこと	正答率は、市を1.8ポイント下回っている。 ○英文を読み、大切な部分を読み取り適切なものを選ぶ問題では、市を1.7ポイント上回っている。 ●対話を読み、対話の流れとポスターから必要な情報を把握して適切な語句を選ぶ問題では、市を8.4ポイント下回っている。	・英語で書かれた表やポスターを用いている英文を読む機会を増やし、英文や表に書かれた情報を素早く正確に読み取る活動を取り入れる。 ・英語を用いた表やポスターが織り交ぜられている問題を授業に取り入れ、様々な場面で英語に親しませる。
書くこと	正答率は、市を2.9ポイント上回っている。 ○まとまった内容で説明する文章(部活動について)を書く問題では、市の平均を8.7ポイント上回っている。 ●英文を正しい語順で書く問題(比較表現を含む疑問文の語順)は、市の平均を2.9ポイント下回っている。	・単語の知識や基本的な文法の定着が図れるように、授業の初めなどに振り返りテストを行う。 ・書くことへの抵抗感を減らすために、自己表現の時間を増やし、自分の意見や考えを、まとまった英文で書く力を身に付けさせる。

宇都宮市立瑞穂野中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートの作成 (学習習慣の確立と、家庭学習の充実を目指して)	・自主学習ノートの活用 生徒は、毎日1ページ以上を目安とした自主学習ノートを作成する。 ・学芸委員が自主学習ノートの提出状況を記録し、「自主学習優秀賞」の委員会表彰を行う。 ・定期テスト対策問題を学芸委員が作成し、1週間前に生徒に配布し、テストに向けて、生徒の学習意欲向上を図る。	「ふだん、学校の授業以外にどれくらい学習しているか」の問いから、3時間以上学習している生徒が各学年とも存在するが、30分未満の生徒の割合も少なくない。本校で継続してきた自主学習ノートの活用により、学習習慣の定着が図られた結果、家庭で学習する習慣は身に付いている。一方で、学力に関する調査項目では、平均正答率が市を下回っている項目も多く存在しているため、今後は学力向上を目標とした、自主学習ノートの内容充実に向けた指導を工夫していく。
・論理的に考え、思考を深め合う学習	・早く正確に読み取り、他の考えをきちんと聞き取り、論理的に言語表現するなどの「共に学ぶ力の育成を目指した授業」を推進する。 - 目標の明確化と振り返り活動 - 研究授業を通しての授業改善 - ミニ研究授業 等	「先生や友達の話をも、最後まで聞いている」「グループなどの話し合いに自ら進んで参加している」「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の問いの肯定割合が、ほとんどの学年で市を上回っている。授業中に学び合い活動を積極的に取り入れている成果であると考えられる。今後も、その力を向上させていくために、授業の発問の工夫をするなど、教員の意識向上を継続させる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「勉強が好きですか」の質問で「好きではない」と回答した生徒が2、3年で2割を超えている。基礎・基本の十分な定着がなされていないことが要因であると考えられる。思考力、判断力、表現力等を高めていくためにも、基礎・基本の確実な定着は最重要課題である。各教科で、基礎・基本の確実な定着を目指して、指導方法や学習形態を工夫し、授業改善を図っていく。

・定期的に国・県・宇都宮市の調査結果を分析し、対策を話し合うことにより、学習指導上の課題を組織的に解決できるよう、校内研修の充実に努めていく。

・「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、学習課題の提示、中心的な学習活動や活動に適した学習形態の工夫、活動を充実させる1人1台端末の活用、学習意欲を引き出す発問、思考を助ける板書、まとめや振り返りの場の設定など、1単位時間の授業の質を向上させる。